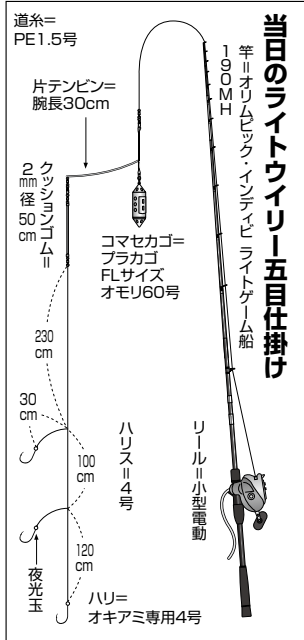


★乗船時はライフジャケットを着用しましょう!!



•Tackle Guide
イサキやアジはハリス2号で十分だが、食ったりするので、ハリス3号か4号を使う。道糸はPE4号以下を使うルールだ。

当日のライトウイリー五目仕掛け

目乗合を周年に渡って出している。前日の土曜日には3隻出しという大盛況だったらしい。釣行した日曜日は5時半過ぎに到着したが、予約で満船。僕は空いていた左ミヨシ2番に席を構えた。宿の受付で船宿推奨仕掛け

発。2人でオマツリならまだなんとかなるけど、3〜4人で複雑に絡みあったりすると手に負えない。その度に仲乗りさんが船中を動き回って処理するが、なんとたつてグチャグチャだから仕掛けを切るほかない。
そんなわけで、置き竿にしたままカメラを手にして釣り座を離れるわけにもいかず、再び画撮りに専念する。

アジも良型ぞろい

一気に食いが立った。イサキの一荷釣りもあちこちであり、3点掛けをする人も。僕も撮影の合間に仕掛けを下ろして一荷釣りで数をのばした。ライトタックルだから、良型を一荷で掛けると引きがよくてなかなか面白い。

アカイサキの姿もチラホラ。ウマツリも顔を見せた。そうそう、オキメバル(トゴットメバル)を釣り上げている人も何人かいて、なるほど五目船だねと納得。
11時45分過ぎに、



▲何が上がってくるか分からないけど、子どもも大人も夢中になる
◀キントキは引き味抜群

湾奥から洲ノ崎までの楽しいプチ遠征五目釣り

●東京湾奥金沢漁港発 洲ノ崎 保田沖 本誌ABC(神奈川) 平林 潔 Kyoichi Hirabayashi

を買い求めたが、なんとハリス4号3本バリの空バリ仕掛け……ウイリー仕掛けではない。船上で仲乗りさんや常連さんに様子を聞くと、ウイリーでも構わないが今の時期は空バリ仕掛けにエサを付けたほうがいいとのこと。フムフム……と納得。

イサキがお出迎え

定刻の7時半に20名の釣りを客乗せて出船。洲ノ崎沖まで1時間半くらい走るとのことだ。数日前から急に暖かくなって、海も穏やかだから快適だ。
8時45分ごろにスタートのアナウンスがあった。「上から78メートル。下からだと6〜8メートルでやってみてください」と指示ダナが出た。しばらくはカメラを手にして様子見する。

せつかく用意していった多種多様のウイリー仕掛けはバッグに入れたままにして、空バリ仕掛けを竿にセットした。空いている平日にはマダイ狙いもしたりするから、10メートル程度のマダイ仕掛けも用意したほうがいいとのことだが……さすがに満船の日は無理だろう。
ざっと船中を見回したが、レンタルタックルの人や、お父さんと一緒の少年の姿もチラホラ。広い層の人が手軽に楽しみに来ているイメージだ。実は、僕は昔から五目釣りを

知得! イサキの旬
イサキの旬は「梅雨イサキ」と言われるように、梅雨のころに脂が乗っておいしいとされる。しかし僕は釣れる場所によって味の違いが大きいと思う。洲ノ崎沖で釣れたイサキはたっぷり脂が乗っていた。ウリボウと呼ばれる小型がとてもおいしいエリアもある。

▲脂が乗ったイサキは刺身と塩焼きが最高



▼手堅いアジでお土産をキープ

ここでオマツリが多発したが、左胴の間の少年は良型のカナガシラをゲット。アジも釣ってなかなかの好釣果を得ている。
釣れるアジは30センチ級の良型ぞろいで、船中ポツポツ竿が絞られた。
操船室で船長に色いろ話を聞きながら魚探を見てビツクリ! すこい反応が出ている。もつとも、これで食いが立つかどうかは潮次第のようだ。
船長によると、本誌発売の4月はアマダイ、イサキ、ア

ジが主体。イサキは6月になれば解禁する剣崎方面も狙うようだ。条件によっては乗っ込みマダイも狙うとのこと。
そうそう、保田沖のマダイは長仕掛けじゃなくて、当日使っていた4.5メートルの吹き流し仕掛けのほうがよく釣れるそうだ。
秋口になるとイナダ、ワラサも狙う。昨年はワラサが釣れまくったらしい。



▼トゴットメバルのダブル

●船宿information
東京湾奥金沢漁港
忠彦丸
☎045-701-3086
(詳細は巻末の情報欄参照)

野原 文雄船長

▶料金=ライトウイリー五目乗合1人1万1500円(コマセ、氷付き)、女性・中学生まで7000円
▶備考=7時20分出船。ほかライトアジ、タチウオ、フグなどへも出船

意外な大物も食ったりする。そのあたりの期待感も魅力的だし、オモリ60号のコマセカゴを使ったライトタックルで手軽に楽しめるのも人気の秘密だ。
ポカポカ陽気になってきた今、湾奥から気軽に行ける遠征スタイルの五目釣り、おすすめです。

●ひらばやし きよし/3回目のコロナワクチンを接種したが、いつどこで感染しても不思議じゃない世の中だ。4回目? やだなあ。